

お互いさま

otagaaisama

恵みあい、助けあう

特集

保育システム 「CoDOMON」 コドモン

系列の全保育園に
ICTシステムを導入
業務効率化に活躍

クローズアップ

キッズタウン ぱれっと

発達に心配のある
子どもたちを
自立に向け丁寧に支援

キラキラ働き人

新さかい幸朋苑

管理栄養士 渋谷 美樹さん
三隅 智加子さん



(左) 登降園時に保育園の入り口で保護者のスマートフォンを専用の機械にタッチ。自動的に管理システムに時刻が記録される
(右) 保護者連絡や体調管理、書類作成などのさまざまな業務をデジタル管理。機能が運動しているので業務の省力化、ミスの削減にも

系列の全保育園に ICTシステムを導入。 業務効率化に活躍

導入により負担軽減を実感

こうほうえんが運営する保育園は、鳥取県内に2カ所、東京都内に8カ所あります。全国的に保育園のICT化が進む中、こうほうえんでも昨年1月、保育システム「CoDOMON(コードモン)」を全系列保育園に一斉導入し、保育士の業務効率化や負担軽減に役立っています。

「一番利用されているのは園児の登降園の打刻システム。朝10時になっても打刻されなければ、まず教室に確認し、欠席していればすぐに安否を確認します」と話すのは、『キッズタウンかみごとう』(米子市)の川端紀子園長。近年、園児が車内に取り残される痛ましい事故が続いていますが、

お話を聞いた人



キッズタウンかみごとう 園長
かわはたのりこ
川端紀子さん
2001年入職。前職では院内保育所に勤務。キッズタウンかみごとうの立ち上げから携わる。



新砂保育園 園長
みずたに まき
水谷真紀さん
2011年入職。新砂保育園の開設以来の職員。副園長を経て、2023年4月から園長に。

園児の安否を迅速に把握して、事故などを未然に防いでいます。『新砂保育園』(江東区)の水谷真紀園長は「打刻が出欠簿に直接反映されるので、職員の負担が減りました」と業務の負担軽減や効率化を実感しています。二人はお互いの話に頷きながら、「電話連絡の必要がなくなったのは大きい」と声をそろえます。「欠席の日は、今まではみんなが朝に電話をしていたのですが、つながりにくかったのですが、CoDOMONなら前日の夜に連絡できます」(川端さん)、「電話だとしても言った・言わないうがあったり、伝達漏れがあったりしたのですが、CoDOMONで確実に伝わります」(水谷さん)

園ごとに機能をカスタマイズ

システムの導入で園のお使いも変化しました。これまでは紙ベースだったものをペーパーレス化を進めています。川端さんが「お使いがカバンの底に押しやられて、保護者に届かないことが時々あったのですが、確実に届きます」と話すと、水谷さんも「閲覧記録がつくので、保護者が確認したかどうかわかって便利。新型コロナウイルスでは、休園の連絡にも役立ちました」と続きます。

また、写真や動画の発信もできるようになりました。園での活動をタブレット端末で撮影して、投稿するだけ



「CoDOMON」の画面はシンプルで操作は簡単。写真や動画を簡単に投稿でき、お便りや書類の作成もスムーズ



青空の下、広々とした園庭でカいっばい遊ぶ『キッズタウンかみごとう』の園児たち。季節の遊びや園外活動も盛んに行われている



『新砂保育園』では食育を大切に、体操教室や英語教室、伝統文化体験も。広場に隣接し、戸外活動も多く取り入れている

タウンかみごとうは、保護者から「行事のお礼などは手書きでしたい」というリクエストがあり、手書きの連絡帳にしています。それぞれの園に合わせて機能を取捨選択できることも使いやすさの一因です。

質の高い保育サービスの提供へ

システムの導入は、職員の業務の質の向上にも一役買っています。川端さんは「例えばセミナーの内容を共有するにしても、以前は参加者がそれぞれノートに手書きしていたので、それぞれに同じ内容を伝えただけなのに、伝わってなかったことも…。今は一斉配信して同じ情報を共有して

いるので、バラつきがなくなりました」と喜びます。また、職員は端末さえあればどこでも情報を共有できるので、タイムリーな対応が可能になりました。例えば保護者の相談では、今まで解決に1日以上かかっていたことが、その日の夕方には解決できているなど、迅速化されました。

「園児の管理や、保護者との連絡、保育計画などさまざまな場面で活躍しています」と水谷さん。川端さんも「保護者の要望や職員の希望に応え、機能を活用したいです」と新しいシステムにより、より良い質の高い保育サービスを提供しようと意気込んでいます。

職員の声

児童発達支援管理責任者
鈴木彩加さん

保育士、『キッズタウンうきま』、『キッズタウンあとリエ』を経て、『ぱれっと』の立ち上げチームに加わる。



子どもたちを認め、小さな成功体験を積み重ねる

発達に心配のあるお子さんは、小さな頃は苦手分野に自覚がなくても、小学生になると苦手意識や自信のなさが芽生えてきます。私たちは距離感に気を付けつつ、子どもたちを褒めて、認めながら、できることを積み重ねています。保育園では、発達が気になるお子さんがいても、支援の方法がわからない、手が回らないということがあります。『ぱれっと』の取り組みを、まず法人内の保育園に発信し、さらに小学校とも連携して子どもに支援を届けたいです。

保育士(係長)
関根優さん

2007年、『ヘルスケアタウンうきま』開設時に入職。こうほうえん系列の保育園を2園経て『ぱれっと』へ。



職員が気軽に相談にのってあげられる、そんな存在を目指したい

発達障害や境界域のお子さんは、成長に伴い、集団の中でできないことが目立ってきます。『ぱれっと』では、少人数のクラスで私たちが子どもと一緒にステップを踏み、子どもができないことがあれば、私たちの力不足との意識で取り組んでいます。発達に心配のあるお子さんのご家族の中には、具体的に困っている事がないことから、支援施設に抵抗がある人もいます。私たち職員がもっと身近な存在となり、気軽に相談にのってあげられるようにしたいです。



室内は刺激が強い色を避けて、緑を基調としたリラックスできる空間。トイレや相談室など個室はクールダウンできるように青が基調



子どもたちが大人目線にプレッシャーを感じないように、相談室と入り口のドアはマジックミラー。保護者からは「普段の活動のようすがわかる」と好評



4名の常勤職員(関根さん、鈴木さん、大川さん、石川さん)と、2名の非常勤職員(三井さん、高梨さん)で子どもたちをサポート。「私たちは週に数時間しかかかわりませんが、保護者の方は1日中心配が尽きません。専門職の知識、技術を保護者や学校に届けたいです」と米総合施設長



子ども一人ひとり特性が異なるので、「くんくんタイム」と称し、毎日ミーティングをして個別の支援計画を考えています、と大川保育士。



発達に心配のある子どもたちを自立に向け丁寧に支援

(右)ソーシャルスキルトレーニングでは、プリントワークや意見交換のほか、スプーンリレー、お題に対して回答がかわらないようにする「かぶつちゃやーよ」などのゲームで相手の立場や気持ちを考える練習をする
(左)子どもたちが真っ先に興味を持つのが、部屋に入らずに飛び込んでくるクライミング。保育士と子どもたちとのコミュニケーションのきっかけにもなっている

close up クローズアップ

こうほうえんの施設を掘り下げて紹介!



施設紹介

キッズタウンぱれっと

- 住所 東京都北区浮間5-13-1 (ヘルスケアタウンうきま2階)
- 電話 03-5914-1340
- 定員 1日あたり10名
- 対象 発達境界域児童、軽度発達障害、軽度知的障害の3歳児～5歳児(児童発達支援)、小学生(放課後等デイサービス)



地域や社会のニーズに応えてオープン

今年1月に東京都北区にオープンした『キッズタウンぱれっと』は、介護・保育・障がい者支援の複合施設『ヘルスケアタウンうきま』内にある児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型事業所です。支援の対象は、発達境界域児童、いわゆる「グレーゾーン」と呼ばれる定型発達と発達障害の間

にくいことが社会的に問題視され、『ぱれっと』では積極的に受け入れていこうと準備してきました」と米総合施設長は開所の経緯を説明します。

『ぱれっと』での支援を家庭や学校でも

境界域の子どもは、得意なことと苦手なことの凸凹の差が大きく、集団生活の中で周囲とうまくいかなくなったり、劣等感を持ってしまったりするケースが多いです。『ぱれっと』では、子ども一人ひとりの特性や段階に合わせた個別支援計画を作成。少しずつ「できること」を増やし、自己肯定感を高め、成長を促していきます。

「大切なのは、『ぱれっと』だけで終わらせないこと。保護者や学校と連携して一貫性のある支援を目指しています」と米総合施設長。開所から間もないですが、保護者からは「家では○○しないで」と否定的な言葉をかけがちだったが、ぱれっとで「○○しよう」と前向きな言葉かけを聞いて、家でも実践したい」という声や、「痲癩を起した時の対応がわからなかったが、ぱれっとでの対応方法を教えてもらいありがたい」という声が寄せられています。

お話を聞いた人



北東京エリア総合施設長 米芳久さん
2019年に入職。『キッズタウンぱれっと』をはじめ、東京都北区にある各種こうほうえん施設を束ねる総合施設長。管理者を兼務。

の子どもや、軽度発達障害、軽度知的障害の子どもたちです。児童発達支援では3～5歳児の小学校就学に向けた支援を、放課後等デイサービスでは小学生を対象とした将来の自立に向けた支援に取り組んでいます。

こうほうえんは12年前から、同じ北区に2～5歳児が対象の児童発達支援事業所『キッズタウンあとリエ』を運営しています。しかし保護者から「就学後に行き場がない」という相談が増え、さらに待機児童も発生していたため3年ほど前に『ぱれっと』の立ち上げが決定。「グレーゾーンのお子さんに支援の手が届き

集団や社会で必要なスキルを身に付ける

『ぱれっと』の支援メニューは子ども一人ひとり異なりますが、例えば就学前なら、一定時間イスに座って板書を書き写す練習や、体幹を鍛える運動など、学校生活に必要なスキルの習得を目指します。放課後等デイサービスはソーシャルスキルトレーニング、運動療法、学習支援を3本柱に個別の支援を行います。特に保護者の問い合わせが多いのはソーシャルスキルトレーニングです。

これは、発達に心配のある子どもへの傾向として、場の空気を読んだり、相手の気持ちを考えたりすることが苦手なため、学校や社会で上手に人とかわる対人スキルの技術やコツを身に付けるもの。『ぱれっと』では、プリントやゲームを通じて、相手の気持ちを考えることや、気持ちの伝え方を学んでいきます。「現在、『ぱれっと』に通っているのは今まで支援の手が届きにくかったお子さんたちです。小さな事業所ですが、熱意ある職員たちばかりですから、地域に開かれた施設として保護者や関係機関と連携して、支援を拡げていきたいです」と職員みんなで子どもと向き合い、熱心に支援に取り組んでいます。



いつもフォローして
くださる渋谷さん。
ご利用者との関係性
も目標にしています。

プロフィール

新さかい幸朋苑 管理栄養士

みずみ ちかこ
三隅 智加子さん

2004年入職。よなご幸朋苑や、きんかい幸朋苑など、鳥取県西部エリアのさまざまな法人施設に勤務。昨年7月から新さかい幸朋苑に勤務。



『新さかい幸朋苑』。水木しげるロードや市役所などにも近い



新さかい幸朋苑に隣接する『みなと幸朋苑』の栄養管理も担当

ベースの献立があり、それぞれのご利用者に合わせて調整する

＼お2人が働く！ 新さかい幸朋苑 とは？

「ヘルスケアタウンさかいみなと」のひとつ、『新さかい幸朋苑』は2006年に開設した定員64名の特別養護老人ホームで、デイサービスやショートステイも併設しています。施設の中はのびのびとした雰囲気があり、季節の行事など楽しいイベントが多いのが特色のひとつ。栄養ケア・マネジメントでは、管理栄養士を中心に、調理スタッフ、介護士、看護師、医師、歯科医師、歯科衛生士、リハビリ職、ケアマネジャーなど、さまざまな専門職の意見が共有されています。



三隅さんは全体を
考えて高い視点から
発言する人。学ばせ
てもらっています。

プロフィール

新さかい幸朋苑 主任管理栄養士

しぶたに みき
渋谷 美樹さん

1992年さかい幸朋苑入職。長年、境港エリアの法人施設に勤務する。地域の介護予防講座などでも講師も務め、栄養の観点から法人の取り組みを発信している。



栄養士はアンテナを張り、 足を動かすことが大切

**豊富な経験生かし
栄養からケア**
こうほうえんに入職して約20年、これまで法人のさまざまな種類の施設で働いてきました。高齢者複合施設もあれば、病院と併設した施設もあり、それぞれでテーマや業務が異なり、多くの経験を積ませてもらっています。
今の職場の新さかい幸朋苑では、献立作成やご利用者の栄養計画の作成、また地域から呼ばれば、学校や公民館などで講師も務めています。ご利用者の献立は、ベースは共通していますが、量や組み合わせなどは異なります。ご利用者は、食事が楽しみな人もいれば、起き上がることにすら負担になる方もいますから、一人ひとりの状態に合わせてバランスを変えているわけです。食事の様子から、普段と違うところがあれば、多職種で話し合っただけで原因を探ります。元気がなかった方が、食事や水分をとったことで状態が良くなってくると、本当に嬉しいです。
**ご利用者の言葉が
仕事の活力**
施設にいるご利用者の皆さんは、3食出て、水分がとれて、食に向き合うことができる環境にいます。

多職種協働で ご利用者の栄養状態を管理

**食事に前向きになれるよう
情報を共有**
私が入職した30年前と現在とは、福祉業界の管理栄養士の役割は大きく変化しています。30年前は給食管理が主でしたが、18年前、介護保険制度の改正により栄養ケア・マネジメントが導入されました。現在は調理、介護、看護、リハビリスタッフ、医師などの多職種協働でご利用者の課題や情報を共有し、その方に合った栄養ケアを行うことが主な業務です。
職場である新さかい幸朋苑は、特別養護老人ホームです。ご利用者にとって、ここは憩いの場であり、また人生の最期を迎える場所でもあることを肝に銘じながら、日々の業務に取り組んでいます。ご利用者は、比較的元気な方もいれば、食べることが精一杯という方もいます。ご利用者とコミュニケーションを取りつつ、また、普段一番接している介護スタッフや、実際に食事をつくる調理スタッフとも協力して、どうしても食事を食べてもらえないか、楽しんでもらえないか考えています。
**ご利用者のために
議論を重ね続ける**
私たちが考えた食事を、ご利用者が笑顔で食べて、そうして体調が安定してくれたら、これほど嬉しいことはありません。



しかし、在宅介護の方は、栄養相談よりもリハビリや通所などがどうしても優先されがちです。法人では在宅を強化していく方針ですが、その中で「栄養士に相談してみよう」と思っただけのような関係づくりが今後大切になってくると考えています。
私たち栄養士は、ご利用者に直接的なケアができるわけではありません。作成した献立を実際に作るのは調理スタッフですし、食事の介助をするのは介護士さんです。その分、自分の足を動かして、ご利用者と話をしたり、勉強をしいに行ったり、データを収集して根拠を示せるよう準備したりと常にアンテナを張る必要があります。大変ではありますが、ご利用者からの「おいしかった」「もっと柔らかいほうがいい」など、さまざまな意見が、仕事の活力です。



ことはありません。ご利用者が目を合わせてくれた、話をしてくれた、というささいな行動は、意欲や食欲を示す希望。関係性の大切さを教わっています。
栄養ケア・マネジメントは、ご利用者の栄養状態を良くするためのものですが、一方で、最期の時が近づいて食事辛いという方に、どこまで頑張ってもらおうのかという葛藤があります。ご利用者がごく自然に人生を終えられるように、私たちがどう行動すべきかは、職種によって意見が分かれるところ。絶対的な正解はないからこそ、私たちは議論を重ねる必要があります。そのような多職種の連携の中で、皆の潤滑油のような存在となり、より良いケアを提供していくことを目指しています。

NHK総合「ニッポン知らなかった選手権 実況中！」にオールジャパンケアコンテストの様子が放映!

昨年12月10日(土)に東京都板橋区立小豆沢体育館で開催された「第12回オールジャパンケアコンテスト」の様子が、NHK総合で放映されました。(令和5年2月14日(火))
会場実技5分野(認知症、看取り、口腔ケア、入浴、外国人介護士分野)のうち「看取り」「入浴」の2分野にエントリーした8名に注目し、大会にける選手たちの奮闘ぶりを多数のカメラで追い、高速実況で紹介しています。弊法人からは「多機能ホーム新砂」の吉田咲さん(入浴分野A部門優秀賞受賞)がフューチャーされました。また、コメンテーターとして田中とも江施設長(ケアホーム西大井)が看護・医療のスペシャリストとして参加し的確な解説をしておられました。



【NHK】
ニッポン知らなかった
選手権 実況中!(HP)

「オールジャパンケアコンテスト」(AJCC)とは...「介護の質の向上と地域との繋がりを目指して」という理念のもと、介護に携わる人たちが生き甲斐を感じ、知識や技術の向上を高めるとともに、地域、社会において介護への関心と理解を深めることが必要であると考えて開催するものです。
全国から集まった選手の皆さん(介護従事者)や地域住民、介護サービスご利用者やそのご家族など介護に携わる方々と一緒に、これまでの介護を見つめ直し、これからの介護を考え実践する機会を提供することを目的としています。2010年の第1回大会から多くの皆様のご協力を得ながら今回で12回目を迎えました。昨年度は感染症対策を考慮し初めての試みとして動画投稿方式で分野も2分野に限り開催し、68名の動画投稿がありました。今回はコロナ禍の中、新しい形としてハイブリッド方式(会場実技と動画投稿)での開催となりました。第13回「オールジャパンケアコンテスト」は令和5年10月15日(日)東京都板橋区で開催予定です。

寄付者 一覧

※令和4年12月～令和5年2月にご寄付をいただいた皆さま

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

- | | | | |
|------------------|-----------------|------------------|------------------------|
| ●角 幸代様 / 10,000円 | ●藤井春美様 / 5,000円 | ●伊藤明子様 / 3,000円 | ●松本 仁様 / 20,000円 |
| ●榎野利治様 / 3,000円 | ●北山朋宏様 / 3,000円 | ●本庄 研様 / 3,000円 | ●斉木広美様 / 200,000円 |
| ●仲山美名子様 / 3,000円 | ●善波吉人様 / 3,000円 | ●田山泰久様 / 10,000円 | ●その他(79件) / 2,698,000円 |
- 寄付金合計額: 2,961,000円**

<さかいエリア> ●日本赤十字奉仕団様 / 手作りの籠とゴミ箱

ボランティア 一覧

※令和4年12月～令和5年2月にボランティアにご参加いただいた皆さま

貴重な時間をいただき、深くお礼申し上げます。

<さかいエリア>

- 正月飾りの生け花...大津真教様 ●花植えボランティア...境港総合技術高校福祉科15名 ●「みなとガーデン」の整備...境港総合技術高校福祉科23名

<よなごエリア>

- 草取り作業...米子市ボランティアセンター7名 ●利用者との関り・食事の準備等...米子市ボランティアセンター36名

<なんぶエリア>

- 利用者との関りなど...倉吉西高校1名 ●地域交流会準備、お茶出し、片付け...乗田千恵様、石田喜和子様、勝部尚子様、足羽恵美子様、佐藤陽子様、仲田みどり様、西山直子様、梅木恭美様、斉木みこ様、尾原稔枝様

<北東京エリア>

- 手遊び・素話・パネルシアター...深澤礼子様 ●地域親子と園児のふれあい遊び...守岡満里子様 ●サンタクロース...鈴木将雄様
●手作り紙芝居...東京家政大学紙芝居サークル

<西東京エリア>

- 傾聴、軽作業...3名 ●絵本の読み聞かせ...小茂根図書館4名 ●AJCCスタッフ参加...1名 ●バザー販売...3名 ●植栽活動...39名

<南東京エリア>

- 保育ボランティア...12名

<錦海リハビリテーション病院>

- 故障した車いすのリユース、リサイクル作業...上村順一様、松原岳洋様、遠藤美紀様、足立晃一様、足立睦未様、木村誉様、野坂進之介様、烏谷香蓮様、清水徹様、今田健様



法人本部事務局

〒683-0853
鳥取県米子市両三柳1400
TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113
フリーダイヤル:0120-418-658
E-mail:welfare@kohoen.jp

東京事業本部

〒169-0075
東京都新宿区高田馬場4-3-7KSビル203号室
TEL:03-3365-1331 FAX:03-3365-1339



2014年度日本経営品質賞大規模部門
(鳥取地区/介護)受賞



こうほうえんはISO9001:2015
(品質マネジメントシステムの国際規格)を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービス日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索
<https://www.kohoen.jp>